

2024年度「取締役会実効性評価」回答・分析結果について

当社は、取締役会の機能向上を図るための取り組みとして取締役会の実効性評価を実施し、その分析結果の概要をお知らせいたします。

1. 分析・評価方法

当社取締役会は、2024年度における取締役会の実効性を分析・評価するため、2025年4月に外部機関の助言を得ながら取締役会の構成員である全ての取締役・監査役に対し、アンケートを実施いたしました。

回答方法は、外部機関に直接回答することで回答者の匿名性を確保いたしました。外部機関からの集計結果を踏まえた上で、2024年6月の当社取締役会において、分析・議論・評価を行いました。

2. 評価項目

アンケート内容の大項目は以下の通りです。

- | | |
|------------------|----------------------|
| (ア) 機関設計と取締役会の構成 | (エ) 経営陣の育成と承継計画 |
| (イ) 取締役会の役割・資質 | (オ) 取締役会の役割・責務遂行の有効性 |
| (ウ) 取締役会の運営 | |

3. 評価結果の概要

取締役・監査役が8割超の項目を「問題なくできている」と評価し、また取締役会の全般的有効性に関わる質問に比較的高い評価がなされたことから、**当社の取締役会の実効性は概ね確保されているとの評価結果が得られました。**

4. 課題の分析と対応

一方で、今回の評価結果から、以下について改善の余地があるとの指摘がありました。抽出された課題に対して、今後対応を検討してまいります。

①機関設計の選択と有効性

- ・取締役員数が少数であることで多角的・専門的な議論が行えない懸念、プロパー出身の取締役が不在であることで議論の内容に深みが無くなる懸念が指摘されました。プロパー社員の多い経営会議を同日開催しプロパー出身の執行役員の意見を取締役会へ反映させている一方、取締役の増員等については取締役会の監督機能の強化とコーポレートガバナンス・コードへの対応等、多面的に検討します。引き続き、当社が求める取締役候補人材の選定と、社内執行役員からの登用も併せて検討します。
- ・取締役会において、人的資本経営戦略や後継者計画等への定常的なモニタリングといった内容の拡充、当社ガバナンス体制に合致した機関設計の選択についての検討及び、事業ポートフォリオや中長期的な当社の姿に関する議論について指摘されました。各議題について、別途議案を作成し、議論の場を設定いたします。

②取締役会の議事進行、取締役への情報提供

- ・業務執行の監督に議論が偏り、株主・投資家目線での議論が不足しているとのこと指摘があります。要点を絞った説明の再徹底とともに、株主・投資家等を意識した議論の時間確保に努めます。
- ・取締役会資料の提供遅れが指摘されました。資料の事前確認を入念に行ったことも原因の一つであり、取締役会の議案数平準化、資料の早期確定を引き続き進め、資料の提出日を事前に提示のうえで提供します。
- ・取締役会と経営会議の別日開催による、取締役会の監督機能強化についてご指摘があります。一方、同日開催によるメリットもご意見を頂いており、メリット・デメリットを整理したうえで検討いたします。

③投資家の声の反映

- ・投資家・アナリストとのコミュニケーションの報告については、実施されているものの、株主とのコミュニケーションに関する報告がなされていないという指摘があります。株主とのコミュニケーション後、必要に応じて共有いたします。

上記の点に留意し、取締役会の実効性評価を更に向上させ、コーポレート・ガバナンスのより一層の強化を図ってまいります。

5. 前回評価結果を踏まえた取組み

2024年5月実施の取締役会実効性評価により課題として認識した4項目のうち、「取締役のトレーニング」に関して、下記の課題解決に取り組みました。

- ・取締役会における議論で有益となると判断した各種セミナーをご紹介いたしました。また、生産現場の工場視察の機会をご提供し、2024年度は4か所視察いただきました。引き続き工場視察の機会提供、適切なセミナー・研修を調査の上ご紹介いたします。

「取締役会の実効性評価」については、今後半期に一度の進捗報告を実施いたします。残りの3項目の課題である、「機関設計の選択と有効性」「取締役会の議事進行、取締役への情報提供」「投資家の声の反映」については、改めて課題として認識し、検討を進めてまいります。

以 上